

問 1 次の計算をせよ。

- (1)  $20 \times \frac{1}{4} + 0.25 \times 2$
- (2)  $(3+4) \times 5 - 28$
- (3)  $3^2 - \sqrt{9}$
- (4) 50 の 8 %
- (5) 10 の 2 割

問 2

2 点 (2,2)、(4,6) を通る直線を求めよ。

問 3

「三面等価の原則」とは、GDP を計算する際、3 つの異なるアプローチで計算した GDP が等しくなるということである。3 つのアプローチとは何か。

問 4

所得	300	400	500	600	700
消費	230	290	350	410	470

(1) 消費が所得の 1 次関数で表されるとすると、どのような式になるか。所得を Y、消費を C として式で表わせ。

(2) 所得が 500 のとき、平均消費性向、限界消費性向はそれぞれいくらになるか。

問 5 名目賃金を M、価格を P、生産量を Y、労働投入量を N とする。「実質賃金は労働投入量の限界生産力に等しい」という内容を式で表わせ。

問 6 1 年後の価格が 107 円の債券の割引現在価値が 100 円だった。利子率は何%か。

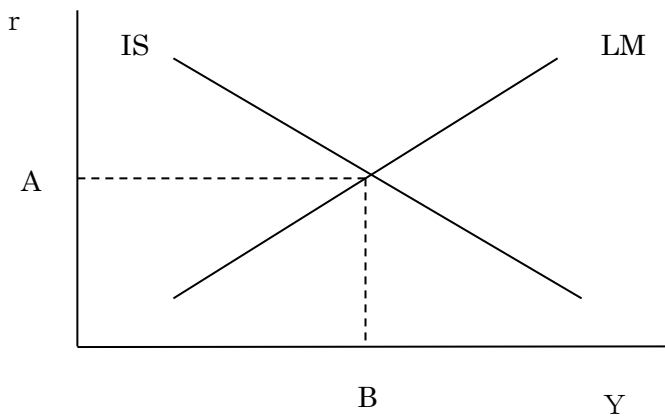
問 7 需要面からみた GDP ( $Y_d$ )、供給面からみた GDP ( $Y_s$ )、所得面からみた GDP ( $Y_i$ )、消費 (C)、投資 (I) が次の関係にあるとする。

$$Y_d = C + I$$

$$Y_s = Y_i$$

消費関数は基礎的消費が 200 兆円、限界消費性向が 0.5、投資は 100 兆円で一定の時、3 つの GDP が一致する水準はいくらになるか。

問 8



直線 IS が  $r = 20 - 0.4Y$

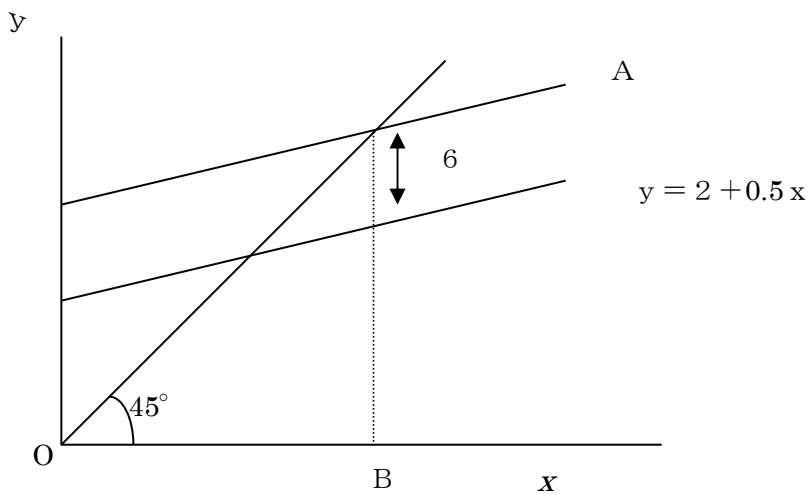
直線 LM が  $r = -2 + 0.6Y$

のとき、次の値はいくらになるか。

A=

B=

問 9



- (1) 直線 A を式で表せ
- (2) B の値はいくらになるか

問 10 これまでの授業での疑問点、感想などを書いてください。